

特定非営利活動法人 生物試料分析科学会 理事長
近畿大学奈良病院 臨床検査部 増田 詩織

このたび、生物試料分析科学会の理事長に、2019-2020 年度に続き、2021-2022 年度も就任させていただくことになりました。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

当会は、1978 年に生物試料分析研究会として発足し、学会誌「生物試料分析」第 1 巻を発刊しました。1989 年に生物試料分析科学会が設立され、2008 年に特定非営利活動法人の承認を受け、学術集会の開催と学会誌の発刊を中心に活動を続けています。2020 年に第 30 回の年次学術集会を大阪で開催しました。また学会誌は 2021 年度に第 44 巻を発行し、長い歴史と伝統を継承しています。臨床検査分野を基盤に設立された学会ではありますが、動物試料分析、食品分析、環境分析、分子生物学的分析を含めた、多くの分野を対象としていることを是非ご認識いただきたく思います。

活動の中心は学会誌を発刊することと、年一回の年次学術集会ならびに全国 7 支部の学術集会を実施することです。これに加え、2010 年度からは認定制度を開始し、分析に携わる技術研究者のさらなる研鑽、研修の場として、ご利用いただけるよう活動の幅を広げています。学会誌（生物試料分析）は年間 5 冊を発刊しており、1 号は年次学術集会の抄録集として 1 月末に、そして特集、総説及び原著論文を掲載する 2 号（3 月末）、3 号（6 月末）、4 号（9 月末）、5 号（12 月末）を刊行しています。また、英文誌（International Journal of Analytical Bio-Science）を年 4 号刊行しています。

臨床検査は、広く様々な医療分野に関連し、エビデンスに基づく臨床医学の根幹となる分野です。生物試料分析科学会では、臨床検査分野の研究と教育の発展に貢献し、臨床検査法の開発ならびに品質と精度の確保、保険診療において適正な臨床検査の運用、臨床検査の普及と啓発に取り組んでいます。さらに臨床検査に関連する学会や団体と連携しながら、臨床検査の国際化に積極的に取り組みたいと考えています。

検体検査の品質・精度の確保に関する医療法等の一部改正などにより、臨床検査の品質と精度を確保することが求められています。ゲノム医療の実用化に向け遺伝子関連検査を含めた臨床検査の品質と精度の確保がますます重要な課題となっています。またさまざまな生物試料の分析技術は、IT 技術・AI 技術の進歩により刻々と進化を続け、新たな知識や技術についての情報交換する場が求められています。

2020 年から世界的に新型コロナウイルスの感染が拡大して、我が国においても感染者が急激に増加する事態になっています。SARS-CoV-2（新型コロナウイルス）PCR 検査をはじめとする臨床検査の適切な実施と新たな検査法の開発は、感染収束に向けて重要な課題であり、生物試料分析科学会としても感染の収束に向けて全力を挙げて取り組みたいと考えています。

関係領域で仕事をされておられる皆さまには、是非とも当会にご入会いただきたく思います。そして会員の皆さまにとって多様な面で利用いただける活性化された学会に成長するよう尽力してまいります。理事会を中心に奮励努力しますので、会員の皆様には、今まで以上のご支援・ご指導をお願いいたします。